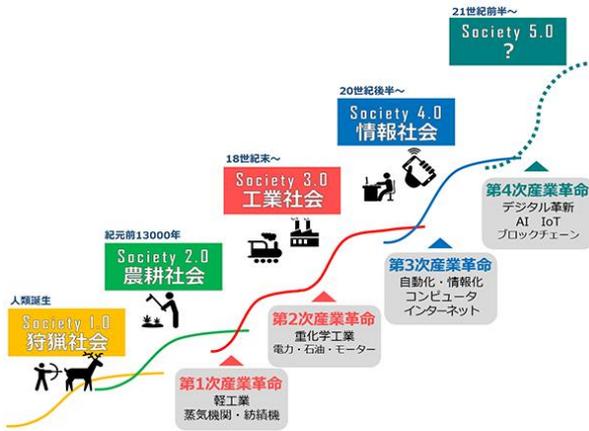




Society (ソサエティ) 5.0



みなさんが社会の中心となって活躍する10～30年後、日本は「Society (ソサエティ) 5.0」と呼ばれる社会の到来を目指すと言われています。Society (ソサエティ) 5.0と言うからには、もちろん Society (ソサエティ) 1.0～4.0もあります。Society (ソサエティ) 1.0は狩猟社会（原始社会で、マンモスなど動物の狩りをして生活）です。2.0は農耕社会（だいたい18世紀の産業革命以前）、3.0は工業社会（インターネット・スマートフォンが普及する以前）、4.0は情報社会（情報が石油や電気などのエネルギーと同じくらいの価値があり、情報を中心に社会が活動する。現在は4.0の終わり頃）です。

国は、「Society (ソサエティ) 5.0」を「サイバー空間（仮想空間）とフィジカル空間（現実空間）を高度に融合させたシステムにより、経済発展と社会的課題の解決を両立する、人間中心の社会（Society）」と定義しています。難しすぎて具体的なイメージがわいてきません。



もう少しだけ分かりやすい説明では、「人工知能(AI)、ビッグデータ、Internet of Things (IoT)、ロボット等の先端技術が進化して、あらゆる仕事や生活の中に取り入れられた社会」です。また分かりにくい言葉が出てきました。Internet of Things (IoT) ”インターネット・オブ・シングズ(アイ・オー・ティー)”と読みます。日本語では「モノのインターネット」と訳されていますが、今までは、インターネットはコンピュータ・スマートフォン同士をつなぐものでした。Internet of Things (IoT) は、コンピュータ・スマートフォンと、私たちの身近にある様々なモノ（冷蔵庫、エアコン、車など）を自動的につなぎます。例えば、遠く離れた所からスマートフォンを使ってエアコンや照明のスイッチを入れたり切ったりする、玄関ドアの鍵をかけたり解除したりする。センサーが付いたペットの首輪で、ペットの行動や状態を確認する。洗濯機の調子が悪い、そろそろ部品の交換時期ですよと知らせてくれる。世界中のあらゆる外国語が自動的に翻訳される、すべての車が自動運転になるなどです。現在(4.0)と5.0の主な違いをまとめると次の表と右下のイラストのようになります。

Society (ソサエティ) 4.0	Society (ソサエティ) 5.0
人間がナビを見て車を運転して目的地へ移動	車が自動走行して目的地へ移動
人間がコンピュータで情報を分析して提案	人工知能(AI)が情報を分析して人間に提案
人間が判断、操作してロボットが生産	ロボットが判断して自動的に生産

今まで(4.0)は、多くの情報があっても、コンピュータやソフトウェアの操作が苦手な人は、その情報を活用できませんでした。高齢の方や障がいがある方は、就くことのできる仕事や行動が制限されていました。性別や生活する地域によって、様々な格差がありました。5.0では、人工知能(AI)、ビッグデータ、Internet of Things (IoT)、ロボット等の先端技術を、あらゆる仕事や生活の中に取り入れ、地域、年齢、性別、言語等による格差なく、誰もが、モノやサービスを必要な時に、必要なだけ利用できるようになるそうです。みなさんは、このような社会の実現に大きく関わっていくことになります。

